

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号番号	4	施設管理者	西和賀町
路線名	和賀線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	和賀線1号橋
施設の所在地	西和賀町沢内字泉沢	起点からの距離	0.10km	建設年度	1970
供用年数	50	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	用水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.0m		幅員(車道幅員)	4.5m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道和賀線は、国有林道と併用協定を締結している併用林道になっているため、当該施設は定期的な管理が必要である。地域住民が主に利用しているが、起点から併用分岐点までは民有林となっているため、今後、当該区域の森林整備計画を検討し、利用頻度を高めていきたい。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月7日				
	調査結果	桁下が低いため、出水時の点検困難。損傷は軽微、主桁・地覆に剥離あり。				
	健全性の診断結果	I (健全)	損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない。			
	劣化原因	経年劣化はあるが、損傷は軽微である。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度				
	内容	損傷の進行が見られないことから、補修等の予定は無し。予防保全の観点から5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 損傷は軽微であることから、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.15					0.20				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号番号	6	施設管理者	西和賀町
路線名	川舟沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	川舟沢線1号橋
施設の所在地	西和賀町沢内字川舟	起点からの距離	0.14km	建設年度	1973
供用年数	47	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	用水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m		幅員(車道幅員)	4.3m(3.7m)
	施設の構造等	上部工型式	RC中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	現在の林道川舟沢線の利用頻度は低く、地域住民が主に利用しているが、利用区域は町有林及び民有林となっていることから、今後、当該区域の森林整備計画を検討し、利用頻度を高めていきたい。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月4日				
	調査結果	橋台に取水管あり。 主桁の一部腐食、剥離・鉄筋露出、漏水・遊離石灰、舗装路面の凹凸、土砂詰まりあり。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁の一部に著しい腐食の鉄筋露出が見られる。 損傷の進行は遅いと考えられるが、予防保全の観点から修繕が望ましい。 路面の凹凸及び土砂詰まりは維持工事で対応する。			
	劣化原因	主桁の鉄筋露出は、かぶり不足と橋面からの浸透水により鉄筋が腐食膨張したためと推測される。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度				
	内容	予防保全の観点から修繕が望ましいが、町財政を考慮すると、林道修繕の優先度は低い。 今後も、5年に1回の定期点検を行い、健全性の診断結果がⅢとなった場合、優先的に修繕を実施する。				
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 損傷の進行は遅いと判断し、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.19					0.20				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号番号	19	施設管理者	西和賀町
路線名	小俣沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	小俣沢線1号橋
施設の所在地	西和賀町野々宿	起点からの距離	0.20km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	溝橋(BOXカルパート)
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	小俣沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.0m		幅員(車道幅員)	6.0m(5.4m)
	施設の構造等	上部工型式	RC溝橋(BOXカルパート)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	—	基礎形式	直接基礎		
橋脚工型式	—	海岸からの距離	—			
施設の目的利用実態等	林道小俣沢線は舗装道となっており、災害発生時の代替路(迂回路)にもなっていることや他林道からの連絡道にもなっていることから、重要な林道となっている。また、交通量も多く、登山利用者や観光客、地域住民の利用頻度も高い。利用区域は町有林及び民有林となっていることから、今後、当該区域の森林整備計画についても検討していきたい。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月4日				
	調査結果	頂版にひびわれ、剥離、目地部から錆汁を伴う漏水・遊離石灰が生じている。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	頂版・側壁の継目部分から錆汁を伴う漏水・遊離石灰が見られるため、損傷の進行は遅いと考えられるが、予防保全の観点から修繕が望ましい。橋面の土砂堆積、舗装のひび割れについては維持工事に対応する必要がある。			
	劣化原因	頂版及び側壁の漏水は路面からの浸透水が原因であると推測され、ひびわれは乾燥収縮によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度				
	内容	予防保全の観点から修繕が望ましいが、町財政を考慮すると、林道修繕の優先度は低い。今後も、5年に1回の定期点検を行い、健全性の診断結果がⅢとなった場合、優先的に修繕を実施する。				
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 損傷の進行は遅いと判断し、優先度は「中」とした。			
対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.17					0.20				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考										

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号番号	19	施設管理者	西和賀町
路線名	小俣沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	小俣沢線2号橋
施設の所在地	西和賀町野々宿	起点からの距離	0.47km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	溝橋(BOXカルパート)
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	小俣沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.0m		幅員(車道幅員)	5.8m(5.2m)
	施設の構造等	上部工型式	RC溝橋(BOXカルパート)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
		橋台工型式	—	基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—	海岸からの距離	—			

施設の目的利用実態等  
 林道小俣沢線は舗装道となっており、災害発生時の代替路(迂回路)にもなっていることや他林道からの連絡道にもなっていることから、重要な林道となっている。また、交通量も多く、登山利用者や観光客、地域住民の利用頻度も高い。利用区域は町有林及び民有林となっていることから、今後、当該区域の森林整備計画についても検討していきたい。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月4日	
	調査結果	頂版・側壁に漏水・遊離石灰が生じている。剥離もみられる。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	頂版・側壁の継目部分から漏水・遊離石灰が見られ、一部剥離もみられる。損傷の進行は遅いと考えられるが、予防保全の観点から修繕が望ましい。橋面の土砂堆積、モルタル剥離については維持工事に対応する必要がある。
	劣化原因	主構目地部の遊離石灰は、目地部の劣化によるモルタルの剥離が原因と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度	
	内容	予防保全の観点から修繕が望ましいが、町財政を考慮すると、林道修繕の優先度は低い。今後も、5年に1回の定期点検を行い、健全性の診断結果がⅢとなった場合、優先的に修繕を実施する。	
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。	
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 損傷の進行は遅いと判断し、優先度は「中」とした。
	対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円	
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。		

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.18					0.20				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号番号	19	施設管理者	西和賀町
路線名	小俣沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	小俣沢線3号橋
施設の所在地	西和賀町野々宿	起点からの距離	0.53km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	溝橋(BOXカルパート)
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	小俣沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.0m		幅員(車道幅員)	6.0m(5.4m)
	施設の構造等	上部工型式	RC溝橋(BOXカルパート)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	—	基礎形式	直接基礎		
橋脚工型式	—	海岸からの距離	—			
施設の目的利用実態等	林道小俣沢線は舗装道となっており、災害発生時の代替路(迂回路)にもなっていることや他林道からの連絡道にもなっていることから、重要な林道となっている。また、交通量も多く、登山利用者や観光客、地域住民の利用頻度も高い。利用区域は町有林及び民有林となっていることから、今後、当該区域の森林整備計画についても検討していきたい。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月7日	
	調査結果	主構目地部から漏水・遊離石灰が生じている。側壁全体に漏水が見られる。舗装にひび割れ、土砂堆積、防護柵の変形あり。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	頂版・側壁の継目部分から漏水・遊離石灰が生じており、剥離もみられる。損傷の進行は遅いと考えられるが、予防保全の観点から修繕が望ましい。舗装の異常及び土砂詰まりは維持工事で対応する必要がある。
	劣化原因	主構、側壁の遊離石灰は、目地部の劣化によるモルタルの剥落が原因と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度	
	内容	予防保全の観点から修繕が望ましいが、町財政を考慮すると、林道修繕の優先度は低い。今後も、5年に1回の定期点検を行い、健全性の診断結果がⅢとなった場合、優先的に修繕を実施する。	
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。	
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 損傷の進行は遅いと判断し、優先度は「中」とした。
	対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円	
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。		

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.13					0.20				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号番号	21	施設管理者	西和賀町
路線名	左草線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	上の橋
施設の所在地	西和賀町左草	起点からの距離	0.20km	建設年度	1971
供用年数	49	種別	PC橋	型式	PC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	左草川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.5		幅員(車道幅員)	5.2m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道左草線は、国有林道と併用協定を締結している併用林道になっているため、当該施設は定期的な管理が必要である。また、橋梁を渡った奥に水田地帯があり、地域住民も利用していることから、利用頻度が高い路線である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年9月3日				
	調査結果	防護柵に変形が見られるものの、道路橋の機能に支障が生じていない状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない。			
	劣化原因	経年劣化はあるが、損傷は軽微である。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度				
	内容	損傷の進行が見られないことから、補修等の予定は無し。 予防保全の観点から5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 損傷は軽微であることから、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)		0.84				0.20				
対策の内容・実施時期		定期点検				定期点検				

## 備考

--

個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号番号	24	施設管理者	西和賀町
路線名	萱峠線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	萱峠線1号橋
施設の所在地	西和賀町左草	起点からの距離	0.35km	建設年度	1976
供用年数	44	種別	PC橋	型式	PCプレテン中空床版
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	左草川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.0m		幅員(車道幅員)	5.9m(5.1m)
	施設の構造等	上部工型式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	現在、林道萱峠線の利用頻度は低く、利用区域は民有林及び国有林となっており、主に地域住民が利用している。今後、当該区域の森林整備計画を検討し、利用頻度を高めていきたい。また、当該林道は隣県の秋田県と繋がっており連絡道の役割(災害時の迂回路)を果たしていることから、定期的な管理が必要である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月7日				
	調査結果	床版間詰め部に氷柱状の遊離石灰、舗装のひびわれ、路面の凸凹及び土砂堆積が見られる。防護柵に腐食、変形、欠損が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	床版間詰め部に氷柱状の遊離石灰、舗装にひびわれについて、損傷の進行は遅いと考えられるが、予防保全の観点から修繕が望ましい。路面の凸凹及び土砂堆積については維持工事に対応する必要がある。			
	劣化原因	舗装のひびわれから侵入した雨水が床版の遊離石灰の原因であると推測。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度				
	内容	予防保全の観点から修繕が望ましいが、町財政を考慮すると、林道修繕の優先度は低い。今後も、5年に1回の定期点検を行い、健全性の診断結果がⅢとなった場合、優先的に修繕を実施する。				
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 損傷の進行は遅いと判断し、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.15					0.20				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号番号	32	施設管理者	西和賀町
路線名	甲子線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	秀衡橋
施設の所在地	西和賀町甲子	起点からの距離	0.21km	建設年度	1988
供用年数	32	種別	PC橋	型式	PCプレテン中空床版
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	鷺之巣川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.5m		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道甲子線は、舗装道となっており、災害発生時の代替路(迂回路)にもなっていることから、重要な林道となっている。また、観光客や地域住民の利用頻度も高い。利用区域は民有林及び国有林となっていることから、今後、当該区域の森林整備計画についても検討していきたい。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月7日				
	調査結果	主桁に損傷なし。 床版に遊離石灰、下部工に漏水、地覆にひびわれ、防護柵に変形が見られるが、いずれも軽微である。				
	健全性の診断結果	I (健全)	床版に遊離石灰、防護柵に変形が見られるが軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない。 路面の凸凹及び土砂堆積については維持工事にて対応。			
	劣化原因	経年劣化はあるが、損傷は軽微である。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和6年度				
	内容	損傷は軽微であることから、補修等の予定は無し。 予防保全の観点から5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から定期点検を令和6年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 損傷は軽微であることから、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検費用 200,000円				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.15					0.20				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

## 備考

--